

「ナル」における韓国語・中国語との対照研究 － 実態調査を中心に －

金 玉 雪*

本研究は、韓国語母語話者と中国語母語話者の日本語学習者を対象に「ナル」の使用状態について実態調査を行ったものである。その結果、「ナル」に、韓国語の場合は「되다・지다」が71.9%使用され、「이다」を含むと96.2%も使用されている。一方、「ナル」に中国語の場合は「成・生」で30.2%使用されている。その他、文末の「了。」が40%で最も多く使用されている。

韓国語は「変化のナル」「実況報告のナル」「意義づけのナル」「事実的なナル」「推論のナル」の用法において「되다」「지다」「이다」が対応しており、「ナル」と類似している。一方、中国語は「変化のナル」「意義づけのナル」には「成」、「事実的なナル」「実況報告のナル」「推論のナル」には変化を意味する文末の「了。」のみ対応していることが分かった。このように、「ナル」において、日本語は「ナル的言語」、韓国語は「ナル的言語」ではあるが、「スル的」要素も持っている。一方、中国語は「スル的言語」であることが明らかになった。

キーワード：「ナル」の用法、韓国語、中国語、対照研究、実態調査
(「나루」의 용법, 한국어, 중국어, 대조연구, 실태조사)

1. はじめに

本研究は、「ナル」の用法に関する日本語・韓国語・中国語¹⁾の対照研究である。日本語「ナル」は、変化を表す動詞であると言われている。北原(2002)は辞書で「ナル」の13の用法²⁾を取り上げているように

* 円光大学大学院 日語日文学 博士課程、jinyuxue1216@gmail.com

1) 日本語・韓国語・中国語について日韓中または日・韓・中と表記する。

2)(1)ある物事・事柄ができるが、成立する。(2)(「…からなる」の形である)ものがいくつ

「ナル」は多義性を持っている。

一方、池上(1981)は『「する」と「なる」の言語学』において、日本語は「ナル的言語」、英語は「スル的言語」と説明している。日本語「ナル」を類型論的に意義づけて、多義の意味を持っているとし、それ以来、日英対照研究は(金谷(2004)、徳永(2006)、李(2014)、桜井(2014)など)盛んに行われてきた。

そして、井上(2010)は、対照研究の重要性について言及しており、「複数の言語を比較する理由は、個別言語が持つ性質と言語学的意義について他の言語と比較してはじめて明確、把握できることがある」と述べたように一つの言語の研究は二つの言語の比較対照よりそれ以上の言語との対照研究と意味の対照研究が有益であると考えられる。しかし、日本語の「ナル」における三ヵ国語の対照研究は管見限り不十分である。そこで、本研究では、韓国語母語話者と中国語母語話者の日本語学習者は、日本語の「ナル」をどのように表すかに着目する。日本語「ナル」に対応する韓国語は「되다・지다」形式が、中国語は「成・生」形式があるが、使用範疇は異なるとされる。従って、実態調査を通じて、対照観点から「ナル」における日・韓・中の対応関係を分析し、日・韓・中の類似性と相違性を考察したい。

かの要素からできている。組み立てられる。構成させる。成り立つ。(3)(多く「…の手になる」の形で)その人の仕事によって作られる。…の制作・製作にかかる。(4)(「…になる」「…となる」「～くなる」などの形で)変化して別の物事に至る。また、ある経過をたどった結果としてある物事が生じる。(5)時間が経過して、ある時期・時刻、天気などに移る。(6)順当に考えると、それに相当する。他の何者でもなく、これに違いないことを示していく。…にあたる。…だ。(7)あるものが一定の重要な役割を果たす。(8)(「…になる」「…となる」の形で)物事がそのように決める。(9)ある数量に達する。(10)それにふさわしい価値が成立する。(11)(「…に(お)世話になる」などの形で)他からその恩恵を受ける。…してもらう。(12)将棋で、王将・金将以外の駒が敵陣に入って裏返され、飛車・角は金将と銀将の働きを併せ持ち、他の駒は金将と同じ働きをするようになる。(13)[古風]おでましになる。～あそばす。(北原保雄(2002)『明鏡国語辞典第3版』株式会社大週刊書店 p.1231)

2. 先行研究

2.1. 日本語「ナル」の位置付け

「ナル」に関する先行研究は池上(1981)、佐藤(2005)、池上・守屋・テキメン(2010)、守屋(2021)などがあげられる。従来の先行研究で共通に述べられている点は、「実がナル」が「ナル」の原義であり、基本的用法として「変化のナル」をあげることである。

池上(2010)、守屋(2021)は「ナル」の基本的意味について、自然的出来、自然的変化だとし、自然的出来は人為を超えて、自然発生的に存在が出来ることを意味すると述べている。

(1) 実がなる/研究がなる (池上2010:371)

(1)は、「無から生まれる」という意味で「実がなる」は、基本的に変化を表し、「実がなる」は自然的出来、自然的変化の「実る」で、「研究がなる」は完成・達成の意味を持っており、変化に連続すると述べている。

一方、佐藤(2005)は、「ナル」の用法を変化と非変化に分類している。(2)の「ナル」は一般的に主体の状態の「変化」を表すものであるが、(3)は「非変化」の用法であるとし、「非変化」を「計算的推論のナル」(3a)と「対人的行為のナル」(3b)に分類している。(下線は引用者が引いたものである。)

(2) グラスが粉々になる。 (佐藤2005:13)

(3)a. 彼は66年のはやうまれなので、私と同じ学年になる。

b. こちらはお手洗いになります。 (佐藤2005:16-17)

「計算的推論のナル」は、客観的に推論する時用いるものであり、「対人的行為のナル」は、話者が発話行為の主体として自己を背景化し、非個人的な立場で発話する時用いるものである。佐藤(2005)は「ナルの多義構造」を図1のようにまとめている。



〈図 1〉「ナルの多義構造」(佐藤2005:37)

「ナル」は「非意図的な動的事象」³⁾は「現実世界」から、「認識世界」、「発話行為世界」へと意味拡張するとし、「基本的用法」から「計算的推論」へ「基本的用法」から「対人的行為」へと意味拡張するのであると述べている。

2.2. 「ナル」の日本語・韓国語・中国語の対照研究

「ナル」に関する日・韓・中の対照研究は、岡(2018)、守屋(2021)などがある。岡(2018)は「ナル」と韓国語のナル的表現「되다」「지다」を事態把握の観点から対照研究を行った。

- (4) a. トマトが赤くなる。
 b. 토마토가 빨개졌다.
 (5) a. 信号が赤になった。
 b. 신호가 빨강색이 되었다. (岡2018:604)

なお、韓国語と日本語はナル的な言語であるが、スル的(動作主的)な要素もあると指摘した。

- (6) a. こちら、生ビールになります。
b. 여기 생맥주가 나왔습니다.(こちら、生ビールが出ました。)

3) 「非意図的な動的事象」とは、ナルの語彙的意味で、ナルのすべての用法に共通する点で語彙的意味のスキーマというものである。(佐藤琢三(2005)『自動詩文と他動詞文の意味論』笠間書院、p.37)

- (7) a. 病気になる。
 b. 병이 나다. (病気が出る。) (岡2018:606)

(6a)は、「ナル」に韓国語の「되다」「지다」が対応しない。(6b)のように「여기 생맥주가 나왔습니다.=こちら、生ビールが出ました。」と表現する。(7a)「なる」にも韓国語の「되다」「지다」が対応せず、「병이 나다=病気になる」が使われる。しかし、岡はスル的要素として「나다」しか取り上げていない。それで、スル的要素としての韓国語形式はどうなっているかについて実態調査を行う必要があると考えられる。

守屋(2021)は、ユーラシアの全体を対象に「ナル」と対応する形式について述べているが、韓国語との対応関係は欠けている。中国語についても、変化の「ナル」に相当する中国語「ナル動詞」のみ言及しているが、「ナル」と中国語の対応関係は詳しく述べていない。

一方、「ナル」と韓国語の対照研究として 손동주(2008)、高地(2021)がある。손동주(2008)は「ナル」は基本的な用法の「自然な変化」から最終的にはコピュラ文へと拡張すると述べている。韓国語の「되다」は自然な変化からコピュラ文を経て、進行、無対自動詞(歩く、走る)の意味まで9つの意味へと広がるとし、「ナル」より「되다」が意味範疇が広いと述べている。しかし、「되다」の意味拡張の文法化の過程に関する解明には納得しにくいところがある。

次に、「ナル」の日中対照研究として、任佳韞(2007)、徐一平(2018)がある。任佳韞(2007)によると、「～にナル」という表現は、最も日本語らしい表現であるが、中国語は「ナル」に対応しないと述べているがこの観点は誤謬が含まれていると思われる。「～にナル」に対応する中国語の形式は全くないわけではない。

そして、徐一平(2018)は、中国語の「ナル」動詞には、現代の語感から「成・生」があり、文末の“了”⁴⁾も取り上げている。また、文末の

4) 劉琛琛(2008:61-77)は、中国語「了」を3つに分けており、文中述語動詞の直後に付く「了」を「了₁」、文末に付く「了」を「了₂」に、「了₁」と共起しながら時制的意味の助詞「了₃」で分類し、その中から「了₂」は、状態変化を表す」と述べている。この論点を用いて本研究は、「了₂」を日本語「ナル」に対応する変化とみなすが、それ以外

“了”は日本語の「だ」に当たるとし、変化の「結果」を表すと述べている。しかし、「了」は「ナル」に対応する形式として見なす明言は控えている。

- (9) a. 成長して一人前の人間になる
b. 「成」…「长大成人」
 - (10) a. 病気になる
b. 「生」…「生病」
 - (11) a. 春になった
b. 春天来了(春が来た)
- (徐一平2018:5)

本研究でも、徐(2018)の論点を支持する。しかし、徐は中国語「了」が「ナル」に対応する形式であると述べているが、実際にどのように使用されているかについて実態調査はしていない。

このように、先行研究において、「ナル」は「変化」動詞である。基本的用法「変化」から意味拡張し、多様な意味を持つこと。また、「ナル」に対応する韓国語は「되다・지다」とスル的要素もある。なお、中国語は「成・生」とその他、文末の「了」があるとした研究が取り上げられたものは多いが、韓国語母語話者と中国語母語話者の日本語学習者を対象とする実態調査は行っていない。そして、「ナル」を実際にどのような表現で使用されているかについて実態調査を行う必要があると考える。

3. 本研究の研究範囲

本研究では、「ナル」と韓国語と中国語との対応関係を明らかにするに当たって、吉田(2011)の用法を用いることにした。その理由は以下の2点である。

の「了₁」と「了₃」は対応しないこととする。

- 1) 先行研究を充分に踏まえて「ナル」の用法を分類している。
- 2) 「結果」⁵⁾という用語を用いて「ナル」各用法間の連続性を表すことができたためである。

そして、吉田(2011)の「ナル」の用法をまとめておく。

① 「変化のナル」

「変化のナル」とは、これから起きる変化結果をいう。

(12) 「取り出しなさい」「ちょっと待ってよ、おじさん。

それじゃ泥棒になるぜ」「簡略」 (吉田2011:30)

② 「実況報告のナル」

「実況報告のナル」とは、今現在示されている変化結果である。

(13) 沈黙が僕らのあいだに降りる。深い沈黙だ。僕の胸の中で
ひとつの質問がふくれあがる。それは喉を塞いで、呼吸
を困難なものにしてしまうくらい大きなものになる

(吉田2011:31)

③ 「意義づけのナル」

「意義づけのナル」は意義づけたところの結果である。

(14) 簡略「もっと正確に言えば、彼女は君のことをとても深く
愛していた。君はまずそれを信じなくてはならない。そ
れが出発点になる」 (吉田2011:32)

④ 「事実的なナル」

「事実的なナル」は、事実的にそこに至る結果である。

(15) 簡略 本橋が運転手をやるようになってから、ここで車を

5) 吉田(2011)は「結果」というのは、基本的用法から離れた「ナル」に「誰が」という推論主体が背景化されて起こる変化の「結果」であると述べている。

下りたのは、きょうで五、六回目になる。もしかしたら
彼は自分に女がいると疑っているかもしれない。

(吉田2011:34)

⑤「推論のナル」

「推論のナル」は推論を経た結果という。

(16) (簡略)返済期限が一年、月々の均等払い、金利は街金融と
しては破格の、年利五パーセントというものだった。し
たがって、江成の毎月の支払い金額は四千四百万円ほど
になる。
(吉田2011:36)

そして、「ナル」と対応する形式の判断については、韓国語は、岡
(2018)の「되다/지다」を、中国語は、徐一平(2018)に基づき、「成・生
・了」を対応する形式とみなす。但し、3つの「了」うち「了₂」のみ対応す
る形式と見なす。

4. 調査の概要

4.1. 調査の目的

吉田(2011)の「ナル」の用法⁶⁾に基づき、韓国語母語話者と中国語母
語話者を対象に実態調査を行った。調査の目的は以下の3点である。

- 1) 「ナル」と韓国語の「ナル的言語」と「スル的」要素の形式を明らか
にする。
- 2) 「ナル」と中国語の対応形式「成・生・了」の対応関係について明
らかにする。

6) 本研究では、吉田(2011)の6つ「ナル」の用法₆₎から「その他のナル」用法を除き、5つの
「ナル」の用法を対象とする。

- 3) 各用法に見られる「ナル」と韓国語、「ナル」と中国語の共通点と相違点を明らかにする。

4.2. 調査の対象者

本研究は、日本語「ナル」に対応する韓国語のスル的要素の実態把握と中国語の「了」に対する実際の使用状況を分析するため実態調査をする必要がある。従って、調査対象は、韓国語母語話者は韓国国内にある日本語学科に在籍する2年生と3年生の合計103名、中国語母語話者は中国国内大学の日本語学科に在籍する2年生と3年生の合計177名である。調査期間は2023年4月7日から4月30日までである。

4.3. 調査の方法

韓国語母語話者と中国語母語話者は、「ナル」が実際に使われる場面においてどのように表現しているかを明らかにするため、アンケート調査を実施した。

調査の用例⁷⁾は、「ナル」の用法別に日本語の例文を6つずつ、総30例を作成した。問題の例は以下のとおりである。

韓国語母語話者用

일본어 문장을 읽고 한국어로 번역하는 문장에 맞게 ()안에 들어갈
가장 자연스러운 표현을 2개까지 고르세요.

例)今回の出会いは本当にいい思い出になるのではないかと思います。

이번 만남이 정말 좋은 추억() 않나 싶어요.

이 되지 이지

이 생기지 을 만들지

7) 用例の一部は、吉田(2011)から引用したものである。

中国語母語話者用

請您在日語句子划線部分選択符合日語句子的最佳兩個漢語詞。

例)今回の出会いは本当にいい思い出になるのではないかと思います。

我覺得這次的相遇真的()美好的回憶。

会成為 制造

產生 有了新的

被調査者に用例の括弧に最も自然だと思う表現を2つ選択するよう指示した。アンケートは選択の方式であり⁸⁾、オンラインで実施している。韓国語母語話者向けの調査はグーグルフォームで作成し、中国語母語話者向けの調査は「問卷網」で作成した⁹⁾。アンケート調査の画面を言語別に、次の図2、図3に示す。

I 일본어 문장을 읽고 한국어로 번역하는 문장에 맞게 ()에 들어갈 가장 자연스러운 표현을 2개
선택하세요.

단답형 텍스트

1)『取り出しなさい』『ちょっと待ってよ、おじさん。それじゃ**重複になるぜ**』『かまわん。こんな石がひとつなったところで誰も気がつかないし、誰も気にしない』(海辺・下)

『께내요.』『참한만요. 아제비. 그러면 ()상관없어. 이런 둘이 하나 없어진다고 해서 아무도 눈치채지 못하고 아무도 신경 쓰지 않아.』

- 도둑이 되는 거야
- 도둑 취급을 당하는 거야
- 도둑이지
- 도둑으로 볼거야

〈図 2〉韓国語母語話者を対象とした日本語「ナル」実態調査

8) 本研究調査は、全体の文章から「ナル」部分だけを韓国語・中国語の文脈で最も自然なものを選択する方式である。(韓国語については、円光大学の日本語学科の先生3名、中国語は、中国大学延辺大学の日本語学科の先生3名にご教示を賜りました。)

9) 韓国語母語話者による実態調査 URL : <https://forms.gle/JrXdj8Tgf2cs9nNQ7>
中国語母語話者による実態調査 URL : <https://www.wenjuan.com/s/UZBZJvedV2/>

完成问卷前请注意：（共30个题目）
 1.请您在日语句子划线部分选择符合日语句子的**最佳两个汉语词**。
 2.请您认真阅读后再答卷。

*1 「取り出しなさい」「ちょっと待ってよ,おじさん。それじゃ泥棒になるぜ」「かまわん。こんな石がひ1)「取り出しなさい」「ちょっと待ってよ,おじさん。それじゃ泥棒になるぜ」「かまわん。こんな石がひとつなくなったところで誰も気がつかないし,誰も気にしない」

“拿出来吧。”“等一下，叔叔，这样（_____）。”“没关系，少了一块石头，没有人会注意，也没有人会在意。”

会成为小偷的
 被当成小偷了
 就是小偷了
 会当成小偷

〈図 3〉 中国語母語話者を対象とした日本語「ナル」実態調査

5. 調査の結果と考察

韓国語母語話者と中国語母語話者による「ナル」における韓国語・中国語形式を整理し、その使用率¹⁰⁾を表1に示す。

〈表 1〉 「ナル」における韓国語・中国語の使用率

順番	韓国語	使用回数 (比率%)	中国語	使用回数 (比率%)
1	되다	1857(60.1%)	了 ₂	2123(40%)
2	이다	752(24.3%)	成為/當成/成/造成/形成/變成	1498(28.2%)
3	지다	366(11.8%)	達到/達/到	816(15.4%)
4	생기다/나타나다/ 나오다	293(9.5%)	很有/具有/擁有/有	682(12.8%)

10) 本研究では、使用回数と使用率について最も多く使用されたものの基準とした。

5	걸리다/옳다	211(6.8%)	為/視為/作為/認為/此為	608(11.5%)
6	달하다/도착하다	203(6.7%)	就是/是/不就是	575(10.8%)
7	하다	202(6.5%)	麥/變得	467(8.8%)
8	흘렀다/지나다	147(4.8%)	很好的/好的/的	418(7.8%)
9	놀랐다	87(2.8%)	了,	398(7.5%)
10	취하다	80(2.6%)	得	328(6.2%)
11	앉았다	77(2.5%)	發生/產生/製造/出現/展出	311(5.8%)
12	~았다/~었다/뒤 집었다	76(2.46%)	感到	171(3.2%)
13	보다	61(2.0%)	保持	171(3.2%)
14	주다	58(1.9%)	容易	167(3.1%)
15	올렸다	32(1.0%)	感染	167(3.1%)
16	같다	16(0.52%)	將近	162(3.05%)
17	돌아가다	15(0.49%)	向上	162(3.05%)
18	크다	15(0.49%)	震惊	159(2.99%)
19	지다	13(0.42%)	會	150 (2.8%)
20	있다	6(0.19%)	給與	121(2.3%)
21	느끼다	4(0.13%)	生	107(2%)
22			价值	84(1.6%)
23			近	70(1.3%)
24			了。	68(1.28%)
25			彈出	64(1.2%)
26			不動的	49(0.9%)
27			嗎	42(0.8%)
28			感覺	20(0.38%)
29			鬧	19(0.36%)
30			做	18(0.34%)
31			患	8(0.15%)

表1からわかるように、「ナル」に対する韓国語の形式は21個、中国語の形式は31個もあった。韓国語母語話者は「되다」を半数以上使用している(60.1%)。「이다」(24.3%)、「지다」(11.8%)、「생기다/나타나다/나오다」(9.5%)、「걸리다/옳다」(6.8%)などであった。以上が実際に使用されていることが明らかになった。

「되다」と「지다」は「ナル」に対して71.9%、「이다」を含むと96.2%も対応しており、「ナル」に韓国語は対応しやすいと考えられる。

一方、中国語は「了₂」(40%)が最も使用されている。次いで、「成」(28.2%)、「達到/達/到」(15.4%)、「很有/具有/擁有/有」(12.8%)、「為/視為作為/認為/此為」(11.5%)、「就是/是/不就是」(10.8%)形式で実際に使用されていることが明らかになった。「ナル」に「成・生・了₂」が70.2%対応している。「ナル」に対して韓国語「되다・지다・이다」のほうが中国語「成・生・了₂」に比べ、類似している。

5.1.にて「ナル」の用法別に詳しく見ていく。

5.1. 「ナル」の用法別日・韓・中の対応関係

5.1.1 「変化のナル」

「変化のナル」における日・韓・中の対応有無と形式の使用率¹¹⁾を表2に示す。

〈表 2〉「変化のナル」の日・韓・中の対応関係

日本語 対応関係	韓国語	使用回数 使用率%	対応 関係	中国語	使用回数 使用率%	対応 関係
泥棒になる	되다	92(89.3%)	○	成為	118(66.67%)	○
伝染病になる	걸리다	93(90.3%)	×	得	164(92.66%)	×
病気になる	걸리다	76(73.8%)	×	会得	164(92.66%)	×
乾燥しやすくなる	지다	88(85.4%)	○	變得	169(95.48%)	×
思い出になる	되다	91(88.3%)	○	成為	169(95.48%)	○
反省の材料となる	되다	90(87.4%)	○	作為	136(76.84%)	×

11) ○は対応する、×は対応していない記号を示す。

「変化のナル」における韓国語は、「되다」と「지다」形式でほとんど対応している。ところが「病気になる/伝染病になる」の場合には、「걸리다」が対応している。病気というものはあってはならないものであり、本来なかった病気が出現しているということである。韓国語では、「되다」ではなく「걸리다」が使用されている。

一方、中国語は「泥棒になる/思い出になる」用例のみ「成」が対応している。「病気になる/伝染病になる」は、本来なかった病気が何かの要因で得られた意味の「得」が使用されることが多い。このように「変化のナル」では、韓国語のほうが中国語より対応しやすいことが確認された。

5.1.2 「実況報告のナル」

「実況報告のナル」における日・韓・中の対応有無と形式の使用率を表3に示す。

〈表 3〉「実況報告のナル」の日・韓・中の対応関係

日本語 対応関係	韓国語	使用回数 使用率%	対応 関係	中国語	使用回数 使用率%	対応 関係
大きなものになる	지다	84(81.6%)	○	感到	171(96.61%)	×
手のひらが表になる	하다	56(54.4%)	×	把	162(91.53%)	×
一瞬しんみりとなる	가라앉았다	77(74.8%)	×	了 ₂	166(93.79%)	○
時の流れに愕然となる	놀랐다	87(84.5%)	×	震惊	159(89.83%)	×
突き放したものになる	되다	49(47.6%)	○	了 ₂	165(93.22%)	○
直立不動の姿勢になる	하다	80(77.7%)	×	保持	171(96.61%)	×

「実況報告のナル」では、「大きなものになる」は「지다」、「突き放したものになる」には「되다」が対応している。それ以外の用例では「하다/가라앉았다/놀랐다」が使用されている。特に、「手のひらが表になる/直立不動の姿勢になる」では、「スル」的要素の「하다」が対応してい

た。中国語の場合は、「一瞬しんみりとなる/突き放したものになる」では変化結果の文末の「了₂」が対応している。しかし、それ以外の用例では、動詞「感到/震惊/保持」と前置詞「把」が使われている。

「実況報告のナル」においては、韓国語と日本語は類似しているが、中国語の場合は、「了₂」を用いることで日本語と対応しやすくなっている特徴が確認された。

5.1.3 「意義づけのナル」

「意義づけのナル」における日・韓・中の対応有無と形式の使用率を表4に示す。「意義づけのナル」において、韓国語は「되다」が殆んど対応している。一方、中国語は、「社会人になったことになる」のみ「成」が対応している。「成」は成長するという変化の意味を持ち、対応しやすいと思われる。その他は「給与/最好/很有/擁有」が使用されている。

〈表 4〉「意義づけのナル」の日・韓・中の対応関係

日本語 対応関係	韓国語	使用回数 使用率%	対応 関係	中国語	使用回数 使用率%	対応 関係
社会人になったことになる	되다	66(64.1%)	○	成为	161(90.96%)	○
いい教訓となる	주다	78(75.7%)	×	給与	121(68.36%)	×
それが出発点になる	되다	78(75.7%)	○	此為	169(95.48%)	×
なによりの薬になる	되다	85(82.5%)	○	最好	173(97.74%)	×
記念になる	되다	98(95.1%)	○	很有	168(94.92%)	×
意味を持つことになる	되다	58(56.3%)	○	擁有	166(93.79%)	×

「意義づけのナル」においては、韓国語は日本語と類似しているが、中国語は「意義づけのナル」のように変化の意味が希薄化されていると、対応しにくくなっていると考えられる。

5.1.4 「事実的なナル」

「事実的なナル」における日・韓・中の対応有無と形式の使用率を表5に示す。

〈表 5〉「事実的なナル」の日・韓・中の対応関係

日本語 対応関係	韓国語	使用回数 使用率%	対応 関係	中国語	使用回数 使用率%	対応 関係
五、六億ドルになる	되다	60(58.3%)	○	達到	149(84.18%)	×
きょうで五、六回目になる	되다	67(65%)	○	了 ₂	163(92.09%)	○
もう七十六になる	되다	71(68.9%)	○	了 ₂	170(96.05%)	○
もう五年も前になる	되다	71(68.9%)	○	了 ₂	143(80.79%)	○
浦河の町になる	이다	50(48.5%)	○	就是	161(90.96%)	×
	도착하다	50(48.5%)	×			
一年近くになる	되다	63(61.2%)	○	將近	162(91.53%)	×

表5のように、「事実的なナル」において韓国語では殆んど「되다」が対応しているが、「浦河の町になる」では「되다」より、「이다/도착하다」が対応しやすくなることがわかった。そして、中国語は「了₂」が多く使われている。それ以外には、ある点に達する動詞「達到」、論理的展開される思考の結論「就是」「將近」が使用されることが確認された。このように変化の意味が希薄化している「事実的なナル」においては、韓国語は対応しやすいが、中国語は「了₂」以外は対応しないという特徴があると言える。

5.1.5 「推論のナル」

「推論のナル」における日・韓・中の対応有無と形式の使用率を表3に示す。

〈表 6〉「推論のナル」の日・韓・中の対応関係

日本語 対応関係	韓国語	使用回数 使用率%	対応 関係	中国語	使用回数 使用率%	対応 関係
見つけたということになる	되다	67(65%)	○	了 ₁	157(88.7%)	×
10.5%から12.5%となる	되다	91(88.3%)	○	到～之間	151(85.31%)	×
四千四百万円ほどになる	되다	58(56.3%)	○	達	120(67.8%)	×
	달하다	58(56.3%)	×			
特徴的な外見になる	되다	76(73.8%)	○	很有	142(80.23%)	×
古墳時代になる	되다	77(74.8%)	○	不就是	136(76.84%)	×
高額所得者になる	이다	66(64.1%)	×	了 ₂	139(78.53%)	○

「推論のナル」では、韓国語は殆んど「되다」が対応している。但し、「四千四百万円ほどになる」の場合には「되다」と「～に達する」に当たる「달하다」が最も使用されている。また、「高額所得者になる」の場合は、韓国語「이다」が使用され、「事実的なナル」と同じ傾向がみられた。一方、中国語は「高額所得者になる」には、変化結果の文末の「了₂」のように使われ対応している。「見つけたということになる」は動詞「找到 + 了₁」で表現されている。それ以外の用例では、話し手が指定する時点を表す「到～之間/達/很有/不就是」の形式で表している。

このように変化の意味が希薄化している「推論のナル」においても韓国語「되다・이다」は対応しやすく、中国語は「了₂」のみ対応することが明らかになった。

6. まとめと今後の課題

本研究では、実態調査を通して日本語の「ナル」について、韓国語と中国語との対応関係を明らかにすることができた。

まず、本研究では、実態調査の分析によって得られた結果にまとめると「ナル」に韓国語は対応率が高く日本語と類似しており、中国語は

韓国語よりは対応率が低く、相違点が目立っている。

また、「ナル」の各用法について、韓国語は「되다/지다」などで表している。スル的要素として「이다/하다/걸리다/가라앉다/도착하다/달하다」などが使われている。変化の意味が希薄化される用法においても、「되다」が主に対応していることが明らかになった。一方、中国語は「成/得/会得/變得/作為/了₁ /了₂ /了₃ /感到/把/震惊/保持/給与/此為/最好/很有/擁有/達到/就是/將近/到~之間/達/很有/不就是」などの形式があった。特に、「ナル」の意味が希薄されるにつれ「了₂」が最も使用されるていることが明らかになった。

そして、「ナル」の用法に韓国語「이다」が使用され「ナル」に対応する形式として扱うことが認められる。中国語の場合は、「了₂」が使用され、「ナル」の対応形式として扱うことが妥当であると言えよう。

今後、「ナル」と韓国語・中国語の文法化の過程を表す形式について追究する必要がある。その他、中国語母語話者の場合「ナル」を使うべきところに非用の可能性があると予想されるため、日本語教育現場への指導法について検討したい。

参考文献

- 金哲煥(2003)『엣센스 日韓辞典 第3版 第3刷』민중서림, p.1801.
- 손동주(2008)「‘なる’와 ‘되다’의 의미 확장과 자동성과의 관계」『동북아문화연구』제 17집, 동북아시아문학학회, pp.401-415.
- 이희승(2011)『엣센스 국어사전 제6판 제6쇄』민중서림, p.708.
- 池上嘉彦(1981)『「する」と「なる」の言語学-言語と文化のタイプロジーへの試論-』大修館書店、pp.197-198.
- _____ (2008)『「する」と「なる」の言語学』を振り返って』『国文学：解釈と鑑賞』ぎょうせい、pp.88-92.
- 池上嘉彦・守屋三千代・テキメン・アイシェヌール(2010)『ナル表現』再考-膠着語における事態の〈主観的把握〉の観点から-』『日本認知言語学会論文集』10、日本認知言語学会、pp.366-376.
- 井上優(2010)『言語研究における対照研究の位置づけについて』『中日理論言語学研究会』28、東京外国语大学、pp.1-10.
- _____ (2020)『意味の対照研究の難しさ』『言語と文明』第18卷1号、麗沢大学大学院言語教育研究科、pp.91-102.

- 岡智之(2018)「日本語と朝鮮語のナル的表現と事態把握一ナル的表現のスキーマ設定に
向けて位置」『日本認知言語学会論文集』第18巻、日本認知言語学会、pp.604–609.
- 金谷武洋(2004)『英語にも主語はなかった』講談社、pp.60–65.
- 北原保雄(2002)『明鏡国語辞典第3版』株式会社大蔵刊書店、pp.1231–1232.
- 佐藤琢三(2005)『自動詩文と他動詞文の意味論』笠間書院、pp.13–40.
- 桜井千佳子(2014)「言語獲得にみられる事態把握と場の言語学」『日本認知言語学会』14、
日本認知言語学会、pp.643–646.
- 徐一平(2018)「「ナル表現」と「スル表現」から見た日本語と中国語」『研究会報告』42、日本
語文法研究会、pp.3–11.
- 高地朋成(2021)「モダリティの観点から見た分析的な形の‘I_게 되다’ ‘I_게 하다’との
比較」『神田外語大学韓国語学会』17、pp.1–36.
- 徳永美暁(2006)「日本語におけるスル的・ナル的表現の語用」『学苑』793、光葉会、pp.
14–25.
- 守屋三千代(2021)「ナル表現」研究の現在と課題—通言語学的に考える—『日本語日本文
学』31、創価大学日本語日本文学会、pp.1–9.
- 吉田玲子(2011)「ナルの用法—変化の意味の有無に関連して—」『日語日文学研究』77、韓
国日語日文学会、pp.25–40.
- 任佳韞(2007)「中国人から見た日本語の発想と表現—「なる」という表現について—」『愛
知工業大学研究報告』42、愛知工業大学、pp.41–45.
- 李春喜(2014)「英語的な表現と日本語的な表現」『関西大学外国語学部紀要』10、pp.99–105.
- 劉琛琛(2008)「文末の“了”に関する分析—日本語「もう」と対照して—」『熊本大学言語学
論文集』7、熊本大学、pp.61–78.
- 呂叔湘(1992)『中国語文法用例辞典《現代漢語八百詞増訂本》日本語版』東方書店、
p.239.
- 中国社会科学院語言研究所(2016)『現代漢語詞典第6版』商務印書館、p.2284.
- 王芳(2022)『新明解日漢詞典(第17次印刷)』外語教学与研究出版社、p.1618.

〈Abstract〉

Contrastive Study of Korean and Chinese with
Respect to ‘ナル’

– A Focus on Actual Usage Survey –

Jin, Yu-Xue

This study conducted a survey on the usage of ‘ナル(Naru)’ among Korean and Chinese native speakers learning Japanese. The results showed that, in the case of Korean, ‘되다.지다’ was used in 71.9% of the instances, and including ‘이다’, the usage went up to 96.2%. On the other hand, for ‘ナル’ in Chinese, ‘成.生’ were used in 30.2% of the cases. Additionally, the sentence-ending ‘了₂’ was the most frequently used, accounting for 40%.

Korean corresponds to ‘되다’, ‘지다’, and ‘이다’ in the usages of ‘Naru’ as ‘transformation Naru’, ‘real-time report Naru’, ‘significance Naru’, ‘factual Naru’, and ‘inferential Naru’, showing similarities to ‘Naru’. Conversely, in Chinese, ‘成’ corresponds to ‘transformation Naru’ and ‘significance Naru’, while the sentence-ending ‘了₂’, indicating change, only corresponds to ‘factual Naru’, ‘real-time report Naru’, and ‘inferential Naru’. Thus, it is evident that while Japanese is a ‘Naru-oriented language’ and Korean is also a ‘Naru-oriented language’ with some ‘スル(Suru)-like’ elements, Chinese is distinctively a ‘Suru-oriented language’.

Key words : ‘Naru’ usage, Korean, Chinese, Comparative study,
Examination of actual use.

투 고 일 : 2023년 09월 29일

심 사 일 : 2023년 10월 19일

제재확정일 : 2023년 11월 06일